



古川巧、ステップスギャラリー初個展である。古川は1950年平塚生まれ、72年東海大学芸術学科卒業、80年銀座かなめや画廊で個展、84年旧東ドイツINTER GRAFIK、85年ニューヨーク第10回国際ミニチュア版画展、86年神田真木画廊 japan'3 KANDA、87年チリ・バルバライソビエンナーレ、88年個展村松画廊、89年個展秦野丹沢美術館、90年個展ギャラリー現、92年から2004年までアートギャラリー京ばしで個展とグループ展、以後横浜で個展とグループ展、今回に至る（WEBホルベインアートニュース）。古川は今年のアートカクテルにも出品しているのだが、私は意識して作品を見るのは初めてだ。グループ展だと、どうしてもその作品の本質ではなく側面しか知ることができない。批評のプロとして失格とお叱りを受けそうだが、個展によって初めてその作品の真価を知ることができる。言い訳ではないが、団体展に所属しているアーティストは、

是非とも個展を開催してその本質を届けて欲しい。それにしても多作のアーティストである。技法、手法、様々な側面を持つ。42点の作品群は大きく分類できるものの、全作品に共通しているのは、抽象的様相により、絵の背後にあるものを良い意味で隠していることにある。本音を言わない、真実を見せないという訳ではなく、寧ろ逆で、絵の背後にあるものを探したり、考えたりしなければならないのだよという現代美術に接する際の本質を教えてくれる。我々の日々の生活は、常に本質が隠された状態に置かれている。政治、経済、法律は勿論、衣服、食材、住居もまた、本当のところどうなのかわからない。知りたくとも教えてくれない、知りたくならないように、考えられないようなシステムが横行している。このままでいいのか。古川は身を以て警告している。我々は応えるべきであろう。真実を知らなくとも、理解しようという努力をすべきだ。

